

▶ 終章

# 日本に求められる重層的アプローチ ——米中競争時代を勝ち抜く地経学

日本経済研究センター 首席研究員

伊集院 敦

【ポイント】

- 米中の戦略的競争とデカップリングの動きに対しては、国益のために経済的手段を用いる地経学的な対応も必要だ。昨今の米中の動きは、日本にとって経済安保と地域政策の両面でリスクとチャンスがあり、「攻め」と「守り」で適切な対応が求められる。
- 日本は経済安保の課題が浮き彫りになりつつあり、意識改革と官民の取り組みで弱点を克服するとともに、研究開発とルール形成戦略で自国の強みを生かすべきだ。地域政策は①日米同盟強化とパートナーの拡大②インド太平洋協力の推進③北東アジア連携のビジョンづくり——などが課題で、北朝鮮問題への対応も試金石となる。
- 日本は米中関係とそれを取り巻く国際社会の複雑さを踏まえ、目的別・機能別にパートナー国をグループ化するなど柔軟かつ重層的なアプローチで事態に対応する必要がある。転換期を迎えた世界経済はグリーンとデジタルを軸に新たな競争と協力が繰り広げられている。外交と成長戦略の課題は重なっており、日本は技術、経済、政治の力を磨いて、正面から立ち向かうべきだ。



注目データ

## 日本と米中の主な国際枠組み

テーマ	日米	日米中	日中
地域協力	日米豪印クアッド	APEC	日中韓、第三国市場協力
人権・民主	D10 構想	国連	人権対話
通商	日米貿易協定、日米欧3極	WTO	RCEP
マクロ経済	G7	G20	
安全保障	日米同盟	国連	防衛交流、連絡メカニズム
国際協力		国連	

資料：筆者作成